

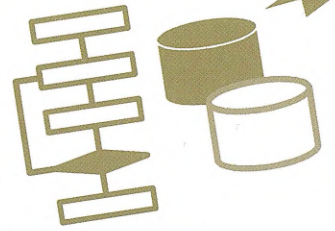


Patent Search Grand Prix

特許検索競技大会

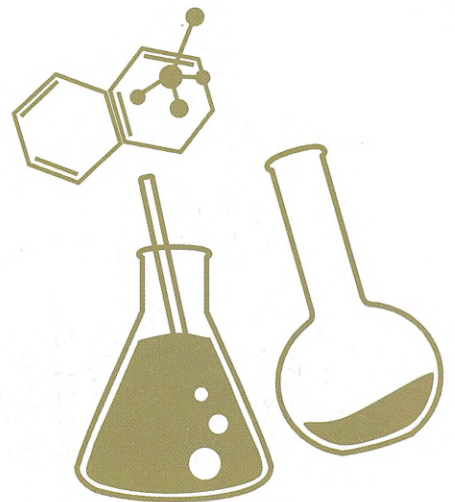
Patent Search Grand Prix

Mechanical
Field



Electrical
Field

Chemical and
Pharmaceutical
Field



特別寄稿

サーチャーの頂点を極めろ!

3分野ゴールド認定取得に挑む

6名の猛者たちからのメッセージ!

本誌発行にあたって

2007年に大阪で始まり、2013年より工業所有権協力センター(IPCC)の主催で実施されている特許検索競技大会は年々参加者が増えており、2019年度にはアドバンストコースに388名、スチューデントコースに247名の参加がありました。この大会が特許調査を生業とする皆様の間に着し、目標の1つとなっていることは、非常に喜ばしいことです。

さて、IPCC主催になってからは、アドバンストコースで成績に応じたレベル認定(ゴールド、シルバー、ブロンズ)を行っております。このレベル認定を受けることを目指して、2019年度までに956名(延べ2,093名)の方が本大会にチャレンジされています。P.4にありますように、ゴールド認定は非常に狭き門となっており、今まで37名の方のみが認定を受けています。この中には、複数回ゴールド認定を受けた方がいらっしゃいますが、残念ながら全選択分野(電気、機械、化学・医薬の3分野)で認定を受けた方は未だいらっしゃいません。技術の異なる3分野を制覇するためには、特許検索の知識・スキルはもちろんですが、技術理解についても幅広い見識が必要なことは言うまでもありません。

しかしながら、ここ数年、2つの分野でゴールド認定を受け、3分野完全制覇へ王手を掛ける強者が現れ始めました。

本誌では、次回(2021年度)以降に開催する特許検索競技大会において、前人未到の3分野ゴールド認定者誕生の期待が高まる中、この偉業への挑戦権を得た強者(全9名)の健闘をたたえるとともに、この中から以下に記載の6名の方に特許検索競技大会との向き合い方や日々の業務スキルアップへの活用方法、そして3分野ゴールド認定を受けるための対策等について、熱い思いをご寄稿いただきましたので氏名とゴールド認定分野を紹介いたします。

- ・畔上 英樹 氏 機械分野(2018年) 化学・医薬分野(2017年)
- ・尼崎 浩史 氏 電気分野(2013年) 化学・医薬分野(2015年)
- ・垣岡 武範 氏 電気分野(2016年) 機械分野(2015年)
- ・静野 健一 氏 電気分野(2019年) 機械分野(2013年)
- ・堤 奈緒子 氏 電気分野(2016年) 機械分野(2018年)
- ・宮本 裕史 氏 機械分野(2017年) 化学・医薬分野(2016年)

(五十音順)

これから特許検索競技大会に参加してみようと検討されている方や、これまで参加されレベル認定を目指してきた方にも参考になる内容ですので、是非ご一読いただくとともに、次回の大会にご参加いただけると幸いです。

2021年4月

特許検索競技大会実行委員会

委員長 金澤 祐孝

【株式会社IHI 技術開発本部 技師長】

特許検索競技大会

日本で唯一、特許調査の実務能力を評価する大会

大会には、学生や企業の研究者等、知財業務初級者向け問題の「学生向け問題のスタンダードコース」と、特許調査に必要な知識・技能を有し、特許調査業務等を実施しているプロ向け問題の「アドバンストコース」のレベルが異なる2コースがあります。

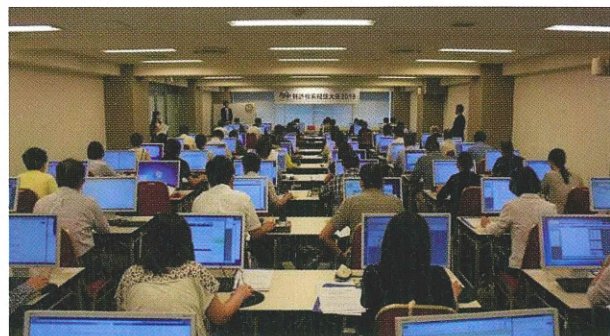
成績（採点結果）が一定のレベルをクリアした方には、認定証を交付します。

学生・研究者等初心者向け
スタンダードコース
● 認定

上級者向け
アドバンストコース
3レベル
● ゴールド認定
● シルバー認定
● ブロンズ認定



大会風景



表彰式・特許検索スキルアップセミナー

(旧)フィードバックセミナー

アドバンストコースの出題内容等について解説

各分野ごとに、解答・検索方法を解説します。東京会場では同日に成績優秀者の表彰式も行います。

特許検索競技大会2019
最優秀賞受賞者 橋間 渉 氏
アズテック株式会社 調査事業部



セミナー風景



個人の部 成績優秀者



畔上 英樹 Hideki Azegami

2017年大会
優秀賞受賞



特許業務法人オンダ国際特許事務所

知財戦略支援部

弁理士／一級検索技術者／AIPE認定知的財産アナリスト

ゴールド認定取得分野

➤ 化学・医薬分野（2017年）

➤ 機械分野（2018年）

「今年は残念だったね」

2分野でゴールド認定をいただき、3分野目の挑戦でシルバー認定だったことを伝えたときに返ってきた言葉です。現行の大会ルールがある中、このような反応に接しますと、否が応にも「全分野ゴールド認定」を意識させられてしまうものです。これに追い打ちをかけるかのような、この企画です。このようなかたちで運営サイドからもプレッシャーをいただくとは思っていませんでした。

執筆のご依頼をお断りしようかとも思いました。これまで、大会への参加にあたり、意気込んで対策をしたことがほとんどないからです。決して、自信があったわけではありません。実のところ、お客様からご依頼をいただいた特許調査の対応が手一杯で、対策をする余裕がなかったのです。流行りのAI（人工知能）とは違い、私の頼りない「天然知能」では処理が追いつかなかったわけです。

全分野ゴールド認定を意識してしまうのですが、この状況を変えよ

うとは思っていません。むしろ、このスタイルを貫こうと思います。特許検索競技大会では、普段の業務で得られた経験を試そうと思いません。

『答えを用意してくれている特許調査の依頼』特許検索競技大会はこのようにも表現できます。

特許検索スキルアップセミナーは、依頼（作問）者様の意図を説明していただける貴重な機会です。そのため、特許検索スキルアップセミナーの内容はしっかり復習するようにしています。普段の業務でも同じです。依頼者様の要求が満たされたかどうか、振り返りが重要ではないでしょうか。私には機械学習の真似ごとにはできませんので、コツコツと経験を積み上げていくしかありません。

最後に、今日のような状況においても、特許調査業界を盛り上げるべく企画をしてくださっている大会事務局の方々、作問を担当してくださっている方々に、深い感謝と心からの敬意を表します。

尼崎 浩史 Koji Amasaki

2015年大会
最優秀賞受賞



インフォストラテジー特許事務所

弁理士／中小企業診断士

ゴールド認定取得分野

➤ 電気分野（2013年）

➤ 化学・医薬分野（2015年）

私は、特許検索競技大会の2013年では電気分野でゴールド認定の、2015年では化学・医薬分野で最優秀賞＆ゴールド認定の栄誉を賜りました。2015年の授賞式で、私は、その年の流行語大賞である「トリプルスリー」について言及し、これまでに電気分野と化学・医薬分野でゴールド認定を獲得したので、残る「機械分野」もゴールド認定を獲得してトリプルスリー（3分野ゴールド認定）を目指すと言及してしまいました。いまにして思えば、ずいぶんと無茶な宣言をしたものと恥ずかしくなります。

トリプルスリーを目指すと言った手前、ここ数年、大会に参加するときは必ず「機械分野」を選択するようにしています。私の専門分野は化学・バイオですが、実務ではいろいろな技術分野の調査を行っているため、機械分野の調査への苦手意識はそれほどないかと思っています。

3分野ゴールド認定を目指すための対策としては、あまり特別なこ

とはしていませんが、大会で選択しなかった技術分野の問題についても、特許検索スキルアップセミナー前に解いてからセミナーに参加しています。すべての技術分野の問題を解いてセミナーに臨むと、様々な技術分野の調査への対応力が鍛えられますし、長時間のセミナーも有意義になります。また、大会直前の時期には、機械分野の問題については数年分の過去問を解きなおしてから大会に参加しています。これは、実務で化学系の調査が多いことから、大会に向けて思考を機械系モードにするためです。

この原稿執筆時は、新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんど毎日自宅で仕事をしています。特許調査は、インターネットに接続できるパソコンがあれば、ある程度どこでもできるため、テレワークに適した仕事だと実感しています。最後に、2020年の特許検索競技大会は残念ながら中止となりましたが、新型コロナウイルスが終息し、2021年の大会が無事開催されることを祈念しています。

垣岡 武範 Takenori Kakioka

トヨタテクニカルディベロップメント株式会社 (TTDC)
IP事業本部 第1コンサルティング事業部 特許戦略室

ゴールド認定取得分野

- ▶ 機械分野 (2015年)
- ▶ 電気分野 (2016年)



2015年に全分野ゴールド認定取得を目標に定め、2分野でゴールドを取得してから2017年より化学・医薬分野で挑戦を続けています。2019年の三度目の正直は既に失敗に終わりました。次こそは化学・医薬分野でゴールドを取得し、目標を達成したいと思います。

なぜ、全分野ゴールドにこだわるか。それは、特許検索技術というのは普遍的な能力であると確信しているためです。普遍的な能力であるなら、どの分野であっても結果が出せるべきです。

私は普段の業務で化学・医薬分野を調査することはありません。日々の業務では、どうしても調査分野の偏りは避けられません。普遍的な能力を身に付けていると証明するためには、全分野でゴールドを取得する以外に方法が無いのです。

特許検索競技大会の対策としては、とにかく日々の特許調査業務の中で基本スキルの実践及び研鑽を怠らないこと。これが大前提です。そのうえで、過去問を解いて自分の解き方や解釈の仕方が化学・医薬分野に通用するかの確認を行っています。更に、社外の化学・

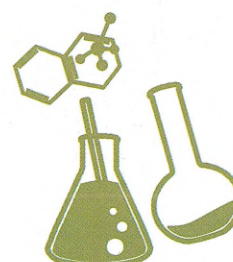
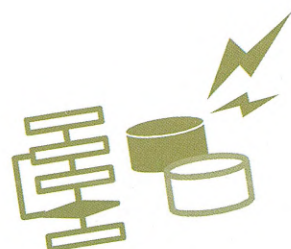
医薬分野のサーチャーから、自身が身に着けたと自覚している特許検索技術が化学・医薬分野でも通用しているのかの確認を受けることで検索技術を磨き上げています。

私が所属するTTDCは特許調査を行うには非常に恵まれた環境です。検索技術について気軽に相談できるレベルの高い上司、お互いに競い合って検索技術の向上に努められる同僚の存在、高度な調査専門ツールが豊富に存在し、更に調査に関するTTDCからの提案を検討頂けるような顧客との良好な関係、と特許調査検索技術を磨くのに必要なものが多くそろっています。この環境を生かし、全分野ゴールド認定取得後は、その実績が示す普遍的な特許調査能力を元にして、新しい特許調査の利用方法を開発し、顧客の技術開発に貢献できればと考えています。特許調査には技術開発に対し、更なる貢献可能性があるかと確信しています。その可能性を切り開く手段として、特許検索競技大会に期待しています。

ゴールド認定は、上位数パーセントの狭き門 !!

開催年度	大会参加者数	選択分野			ゴールド認定者数	ゴールド認定率
		電気	機械	化学・医薬		
2013年	175名	87	49	39	6名	3.4%
2014年	212名	80	71	61	5名	2.4%
2015年	285名	118	92	75	9名	3.2%
2016年	325名	156	73	96	5名	1.5%
2017年	339名	127	112	100	6名	1.8%
2018年	369名	130	135	104	13名	3.5%
2019年	388名	135	138	115	7名	1.8%

皆さまのチャレンジを
お待ちしております!



静野 健一 Kenichi Shizuno



アズテック株式会社 調査事業部 調査第1グループ
リーダー/弁理士

ゴールド認定取得分野

- 機械分野 (2013年)
- 電気分野 (2019年)

「3分野ゴールド認定」をテーマに寄稿のご依頼を頂いた。特許検索競技大会では、電気、機械、化学・医薬の各分野それぞれでゴールド～ブロンズの認定が行われるのだが、ここに来て史上初の全3分野ゴールド認定者（3冠）が誕生する気運が高まっているとのことである。私も過去2分野でゴールド認定を頂いており、「王手」ということでお声がけを頂いたようだ。

史上初の3冠…。魅力的な称号ではある。しかし、大会での分野の選択は重大な問題だ。大会は常に時間との闘いであり、魔物が潜む。判断を誤るとゴールドどころか認定も危うい。イチかバチかで「3冠」を狙うか、手堅くいか…。

私のことはさておき、どなたかが「3冠」を取得するのは時間の問題であろう。というより、このようなゼネラリスト型サーチャーは時代が要請するところなのではないか。今日のように技術が絶えず複合的に発展していく中で、自身の専門分野だけで事足りるということはほとんど

ない。分野自体が陳腐化してしまうことさえある。このような状況にあっては、常にあらゆる技術を学習し、分野に依らず成果を出せることの意味は大きい。また、AI等のツールの登場により、サーチャーの側も相応の変化が求められている。その変化の方向性の一つとして、特定の分野を深めるのではなく、広くあらゆる技術に対してツールを最適にチューニングできるスキルを磨くということが考えられる。いずれにせよ、「3冠」には単なる認定コレクター以上の価値があるように思われる。

特許検索競技大会には2011年からほぼ毎年出場させて頂いており、2015年には海外サーチャーを招いた「国際セクション」への参加の機会を頂く等、個人的にも大変思い入れが強い大会である。2020年大会は新型コロナウイルスの影響で惜しくも中止になってしまったが、今後も知財業界の活性化、ひいては産業経済の発展のために、大会がより一層盛り上がっていくことを願ってやまない。

堤 奈緒子 Naoko Tsutsumi

2016年大会
最優秀賞受賞



トヨタテクニカルディベロップメント株式会社 (TTDC)
IP事業本部 第2コンサルティング事業部
IP戦略ソリューション室

ゴールド認定取得分野

- 電気分野 (2016年)
- 機械分野 (2018年)

2015年、最優秀賞者の尼崎さんのスピーチで、「3分野でゴールド認定」といった特許検索競技大会（以下「大会」）における新たな目標が示され、また「3分野ゴールド認定」を当時の流行語大賞である「トリプルスリー」のフレーズを用いて表現されていたことがとても印象に残っていました。2016年、自身が電気分野で最優秀賞を頂いた際、前年のことを思い出し、「これは私もトリプルスリーを目指さないといけない」と意識し始めたことを覚えています。その後2018年に機械分野でゴールド認定を取得し、あと一步というところで2019年は化学・医薬分野でシルバー認定。なかなか目標に届かずもどかしさを感じています。

今、TTDCでは大会に対する若手のモチベーションが高く、また出場者が結果を残すようになってきています。今後、若手育成のためにも早々に目標を達成し、気持ちよく卒業したいと思っています。もしかしら事務局長さんはその先に新たなミッションを用意されるかもしれない。

特許検索を行うにあたって、検索対象の技術分野に馴染みが無くても、基本動作に大きな差異は無く、決まった時間内で正確な結果は出せるものと考えています。TTDCでは大会の対策として予選会や勉強会を行っています。これは日々の業務を通して「限られた時間内で基本動作を行える能力」が身に着いているのかを確認し、更に「そのための工夫やノウハウ」を共有する場であって、劇的に検索能力を向上出来るものではありません。一方で、自身はまだまだ一人前とは言えない時期から大会に参加し続けることで、常に正確性や効率を意識して工夫をこらす癖がついたため、大会に参加する意義は大きいと考えています。

今後も3分野ゴールド認定に挑戦し、どのような技術分野でも高品質な調査結果を提供出来る能力を身に着けたいと思います。また実際に認定を受けてその能力を周囲に示すことで、組織全体としても高品質な調査結果を提供できる体制を構築していきたいと考えます。

宮本 裕史 Yasushi Miyamoto

富士フィルム知財情報リサーチ株式会社
調査分析ユニット

ゴールド認定取得分野

- ▶ 化学・医薬分野 (2016年)
- ▶ 機械分野 (2017年)



特許検索競技大会 (PSGP) のゴールド認定は2016年 (化学・医薬) →2017年 (機械) と運良く2年連続でいただくことができました。そこで2018年は3分野制覇を目指し迷うことなく電気分野に挑み、実は「よくできたかも? ひょっとしたら! 」と内心思っていたのですが、ふたを開けてみると結果は惨憺たるものでした (笑)。逆にゴールド認定を取れた年は「できた」気が全然しなかったのが、本当にわからないものだと思います。

昔はさまざまな種類の調査に従事しましたがここ数年は無効資料調査ほぼ一筋で、その代わりに調査対象の技術分野には制限がなく、ありとあらゆる分野に取り組んでいます。もともと化学系調査に馴染みがあるのですが、近年は診断装置、医療AI、光学機器、画像処理、OA機器…富士フィルムグループの全事業領域にわたり機械 & 電気系の調査を手掛けます。360度どの方向から

飛んでくるかわからない千本ノックを受けている感覚です。千本ノックを強制されたのか自主申告したのかの境界は極めて曖昧ですが… (笑) その結果、最近では自分が一体「何系」のサーチャーであるのかだんだんわからなくなってきました…

逆に個人として“コアな技術領域”と胸を張って言えるようなものがあまりないので、何だか根無し草のようでもあります。他社のサーチャーの方とお話をすると私のような者は珍しいかもしれません。しかし技術分野に節操なく取り組んできた結果、予想外の難局にも対応できる適応力のようなものは間違いなく向上し、比較的馴染みのある化学系調査においてもその適応力は役立っているように思います。そしてきっとPSGPへの挑戦にも役立っていると思いたい…

残念ながら2020年のPSGPは中止となりましたが、さらに調査分野をじわじわと広げながら次回に向け実力を養いたいと思います。

【アドバンスコース】これまでの出題内容・分野別テーマ

※問1は共通問題のため省略

			電気分野	機械分野	化学・医薬分野
2013年	問2	出願前調査 (国内)	静電気除去装置	VOC処理装置	マリアアワクチン
	問3	無効化資料調査 (国内)	不正入館防止システム	シールド掘削機	集塵フィルター
2014年	問2	出願前調査 (国内)	画像処理装置	板状ワーク洗浄装置	カーボンナノチューブ分散剤
	問3	侵害防止調査 (国内)	デジタルスチルカメラ	三次元造形装置 (3Dプリンター)	蛍光性ポリマー
2015年	問2	出願前調査 (国内)	掃除ロボット	低速走行検出手段と歩行者検出手段とを備え、歩行者に対してエンジン音を発生させる自動車	廃棄物を原料とするエタノール製造方法
	問3	無効化資料調査 (国内)	非接触充電システム	ターボチャージャ	燃料電池セパレータ用樹脂組成物
2016年	問2	出願前調査 (国内)	睡眠環境調整装置	ヒートポンプ装置	ガスバリア性包装用フィルム
	問3	侵害防止調査 (日米)	家電管理装置	レーザ溶接用加工ヘッド	皮下注射用インスリン製剤
2017年	問2	無効化資料調査 (国内)	行動情報監視システム	頭皮頭髮ケア用光線療法器具	農業製剤包装体
	問3	無効化資料調査 (外国)	無人航空機	車両空調システム	水処理用光触媒
2018年	問2	出願前調査 (国内)	ドアホン装置	セキュリティ装置	細胞培養用担体
	問3	侵害防止調査 (外国)			
2019年	問2	出願前調査 (国内)	部品実装装置	クレーン装置	創傷被覆材
	問3	無効化資料調査 (外国)	情報処理装置	靴	着氷防止コーティング

一般財団法人 工業所有権協力センターでは、
公益目的事業として特許検索競技大会を主催しております。

IPCC 一般財団法人 工業所有権協力センター
Industrial Property Cooperation Center

〒135-0042
東京都江東区木場1-2-15
深川ギャザリア ウエスト3棟
企画室企画部 電話 03-6665-7877
メール kikaku-bu@ipcc.or.jp



特許検索競技大会特設サイト

<https://www.ipcc.or.jp/contest/>

